

5 月 13 日 (土)

14:00~15:30

会場：國學院大學 院友会館

〔企画展〕花\*Flower\*華 —琳派から現代へ— 関連イベント  
 四季の草花は、なぜ描きつづけられたのか —近世・近代の日本絵画にみる文化と意識—  
 応募用紙

タイトル

「四季の草花は、なぜ描きつづけられたのか—近世・近代の日本絵画にみる文化と意識—」

講師

玉蟲 敏子 氏 (武蔵野美術大学 教授)

日時

2017年5月13日(土) 14:00~15:30

会場

國學院大學 院友会館  
〒150-0011 東京都渋谷区東4-12-8 (山種美術館より徒歩3分)

参加費

無料  
 ※ただし、本展入場券(または半券)が必要。当日会場にて入場券購入も可能。  
 ※当日展示会場でのギャラリートークなどはございません。展示会は会期中・開館時間中に  
 各自(一般当日1,000円)ご鑑賞ください。

定員

200名 (先着順)

※ は必須

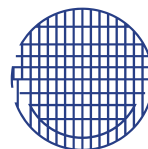
フリガナ：		性別：	男 ・ 女
※ お名前：		年齢：	歳
※ 住所：	〒(        —        )		
※ 電話番号：		※ FAX：	
携帯電話：		E-Mail：	

記入日：2017 年    月    日 ※

送信日：2017 年    月    日 ※

受付番号 (当方記入)：

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-12-36



山種美術館  
 Yamatane Museum of Art

## 出演者プロフィール：玉蟲 敏子 氏 (たまむし さとこ)

東京生まれ。東北大学大学院博士課程前期修了。博士(文学)。静嘉堂文庫美術館主任学芸員を経て、2001年より武蔵野美術大学教授。著書に、琳派三部作『生きつづける光琳』(吉川弘文館、2004年)、「都市のなかの絵—酒井抱一の絵事とその遺響—」(ブリュッケ、2004年國華賞)、『依屋宗達金銀のかざりの系譜』(東京大学出版会、2013年芸術選奨文部科学大臣賞)がある。16世紀半ばから19世紀半ばの美術工芸について、中国明清の文人趣味や西欧のジャポニスムを視野に入れて考察。最近の関心は、琳派とやまと絵の交流の諸相や、近代に残された江戸の文人美術の研究など。国際化する時代に相応しい開かれた日本のアートの歴史を探究したいと考えている。